１．学生の外国語能力向上に関する取組（2020 年度以降入学者に適用）

１）外国語能力の到達目標

特に定めはないが，各研究室における研究指導は研究成果を国際会議等で報告できることを目標としているところであるから，国際会議における研究成果発表と，それぞれの研究分野における必要なディスカッションができる英語能力を求めている。

２）外国語能力を向上させるために実施する取組

2019 年度より情報科学院へと改組したことに伴い，英語で実施する国際連携情報学科目と実践型科目を用意し，各コースからも一定数の英語による特論科目の提供を受け，英語のみで特論科目単位を修得できる体制とした。

希望する学生については，工学院と共同で運営する工学系教育研究センターの実践英語演習を受講することにより，英語能力を向上させることができる。

また，大学院教育改革推進プログラム（学生旅費支援）により国際会議参加のための参加費支援及び英語論文発表のための校閲費支援を実施しており，国際会議への参加，英語での成果発表を促している。

２．学生の国際性を涵養できた実例

①学生 O は，本学院が実施する大学院教育改革推進プログラム（学生旅費支援）の補助を受け外国開催の複数の国際会議に参加し，その研究成果の公表活動を通じで知り合った，外国大学の教員に仲介を依頼し，ドイツ研究機関の研究の博士研究員となり優れた研究業績をサイエンス誌などに発表するなど，国際的に活躍する研究者としての成果を上げて，帰国後，国内大学の教員として国際共同研究を進めている。

②学生 I は，本学院が実施する大学院教育改革推進プログラム（学生旅費支援）の補助を受け外国開催の複数の国際会議に参加し，国際会議にて知己を得た海外大学の教授と共同研究を進めるため，グローバル COE の中期海外派遣プログラムを利用し，数か月滞在し共同研究を実施し，Phys. Rev 誌に筆頭著者として共同研究の成果を発表した。国内の独立行政法人の研究職を得，同機関における若手外国人研究者との共同研究・支援等を積極的に進め，現在では同機構の主任研究員として活躍している。

③学生 K は，本学院が実施する大学院教育改革推進プログラム（学生旅費支援）の補助を受け英国で開催された国際会議へ参加し，自身の研究成果を発表するとともに若手ワークショップの開催ボランティアを担当し，セッション会場で知り合った学生 K の研究領域における権威である海外大学教授の知己を得，工学院とともに運営する工学系教育研究センターの海外インターンシップ支援制度を利用し，中期のインターンシップとして当該教授の指導を受け，現在自身の研究を深化することにまい進しており，今後，国際性を有する次世代リーダとして期待される。